

# 葛藤変容のグループアプローチ： 教育ファシリテーターとしての成長をめざして

岩田好司（久留米大学）

キーワード：教育ファシリテーション、多様性、多文化共生、葛藤変容、プロセスワーク

「協同と葛藤は表裏一体です。協同の成否は葛藤にどう向き合うかによって大きく左右されがちです。」(Johnson & Johnson, 1995).

私たちの暮らす世界や社会は多様です。そしてその多様性に起因する力のぶつかり合い（葛藤）があらゆるところに生じています。教室も例外ではありません。年齢、性別、国籍、障害、性的指向、親の職業、経済状態、学力、体力、運動能力、コミュニケーション能力、外見、そして性格などなど、様々なカテゴリーでの力関係（ランク）が様々な外的・内的葛藤を生んでいます。そうした葛藤は個別学習では顕在化しにくいとしても、協同学習によって学習者間の関係性が深まるにつれて顕在化してきます。

葛藤は回避すべきなのでしょうか？

協同するとは、それにとまなう様々な対立葛藤（否定的相互依存）や分裂のリスク（相互依存ゼロ）を乗り越えて共通の目標達成（肯定的相互依存）に向かうことであると言えるでしょう。だから、協同学習は多様性・多文化共生にとまなう葛藤を困ったこととしてとらえるのではなく、むしろ豊かな学びを可能にする資源としてとらえなおします。実際、共通の目標に向かって協同することによって偏見が低減し、集団間の人間関係が改善することが実証されています（Slavin, 1990 など）。学習者が協同することを学ぶとは、多様な差異やそれにとまなう対人的・心理的葛藤を乗り越え、それを豊かな人間関係に変容させることを学ぶことに他なりません。

とはいえ、このような肯定的な学びが得られるようにするには教育ファシリテーターとしての教師の側に多様性葛藤に対する一定の感受性が必要になってくるでしょう。葛藤変容に対する学習者の気づきの高まりが協同の促進に直結するからです。協同（学習）のファシリテーターとはしたがって、葛藤に気づき、それを協同へと変容させる葛藤変容の促進者であると言えるでしょう。

そこで本ワークショップでは、葛藤変容のグループワークを行い、それを通じて内的・集団的な葛藤を変容させるためのスキルとメタスキル（協同の精神）を学びます。

具体的には以下の学びを目標とします。

- 1) 多様性への自覚：具体的な葛藤を取り上げ、それにグループで取り組みます。葛藤状況にある様々なロール（立場）の立ち位置を設定し、参加者は最も身近に感じる立ち位置に移動します。ファシリテーターは様々なロールの考えや感情を掘り下げ、対話させ、「ロールの反転」(Johnson, 1971)などによって対立するロールを自分のものとして体験することを参加者に促します。この体験によって参加者は多様性（葛藤）への自覚を高め、（協同）教育ファシリテーターとしての成長を実感できるでしょう。
- 2) グループファシリテーション：上記グループワークは一種のロールプレイですが、そのファシリテーションには様々な工夫があります。たとえばグループのエッジ（限界）に気づき、それを乗り越える手助けをする工夫とか、話題にはなるが誰もその立場に立って発言しないロール（ゴーストロール）をグループワークの場に持ち込むといった工夫です。ファシリテーションを学び、各自の教育現場に持ち帰って実践できるようになることを目指します。ロールの布置をマッピングするだけでも葛藤変容に有用です。

なお、本ワークショップで扱うグループアプローチはプロセスワーク（プロセス指向心理学）の知見に基づいています（Mindell, 1995 & 2002）。プロセスワークの葛藤変容アプローチは授業、ホームルーム、全校集会、職員会議、地域住民との集いなど、学校コミュニティ内の様々な話し合いの場面に援用していくことができます。協同学習は元来、葛藤解決理論を背景としており、授業場面のみならず、学校現場全体で生起し続ける多様な対立・葛藤に向き合い、それをコミュニティ変容の契機としていくことは、多文化共生社会をめざす協同的教育実践として有意義なことであるにちがひありません。

## 参考文献

- Johnson, D.W. (1971). Role reversal: A summary and review on the research. *International Journal of Group Tensions*, 111, 318-334.
- Johnson, D.W., & Johnson, R.T. (1995). Teaching Students To Be Peacemakers. <http://www.co-operation.org/pages/peace.html>. Retrieved 03/24/2010.
- Mindell, A. (1995). *Sitting in the Fire: Large Group Transformation through Diversity and Conflict*. Portland, OR: Lao Tse Press=青木聡（訳）(2001)『紛争の心理学』講談社現代新書
- Mindell, A. (2002). *The Deep Democracy of Open Forum*. Charlottesville, VA: Hampton Roads=富士見ユキオ、青木聡（訳）(2013)『ディープ・デモクラシー：〈葛藤解決〉への実践的ステップ』春秋社
- Slavin, R.E. (1990), *Cooperative Learning: Theory, research and practice*, Boston: Allyn & Bacon.